

# 日本庭園における造形と抽象性

庭園の芸術性を考える際には、造形の抽象化度を判定基準として考慮した。ここでは以下の1~3段階に大別し、さらに各項目を①②に細分化した。なお、日本庭園に求める理想像を「癒される」「落ちつく」「しっとりとする」を求める場合は自然の野山に勝るものはないと考え、芸術性の対象としないことにした。

## 日本庭園の造形の推移

日本庭園は単に自然風景を模倣し、直接取り入れるのではなく、造形に意味を見出し、順次象徴化、抽象化されてきた。以下にその全体像を示す。

### 1 具象的造形

- ①自然の中にある庵・東屋の風景（自然そのものを眺める田園風景）
- ②箱庭的に自然を模倣した造形（自然の要素を取捨選択せずに、あれこれ取り込んだ造形）

### 2 象徴的造形（自然の風景をデフォルメした、やや抽象化された造形）

- ①自然風景のデフォルメ（表象化）した造形（例えば磯・洲浜など）
- ②神話・伝説の物語を視覚化した造形（例えば蓬莱山・須弥山・極楽など）

### 3 抽象的造形

- ①人工的造形（重森の造形）  
（自然の風景を高度に抽象し、自然には無い直線や曲線の形や色の造形）
- ②完全な抽象造形（自然の風景と関係ない龍安寺の世界）

## 4 抽象化の思想と造形の完成度に関する概念図

日本庭園は自然を取り込んだ具象的庭園から、次第に物語の視覚化や自然の表象化、即ち象徴化の方向に進んだ。さらに禅思想の影響もあってか抽象化された石組みは「空間構成美の庭」を完成させた。ただし、抽象化度の高い庭園は抽象思想を造形化することが困難なため、多くの日本庭園は下図に示したような象徴庭園の部類に属している。なお日本庭園は不可逆的に抽象化を目指したのではなく、試行錯誤の末、結果的に龍安寺のような完成度の高い抽象庭園に達したと思われる。

近代になって重森らにより世界基準に適う造形性主体の庭や抽象庭園の試みがなされている。

↑ 抽象化度

